

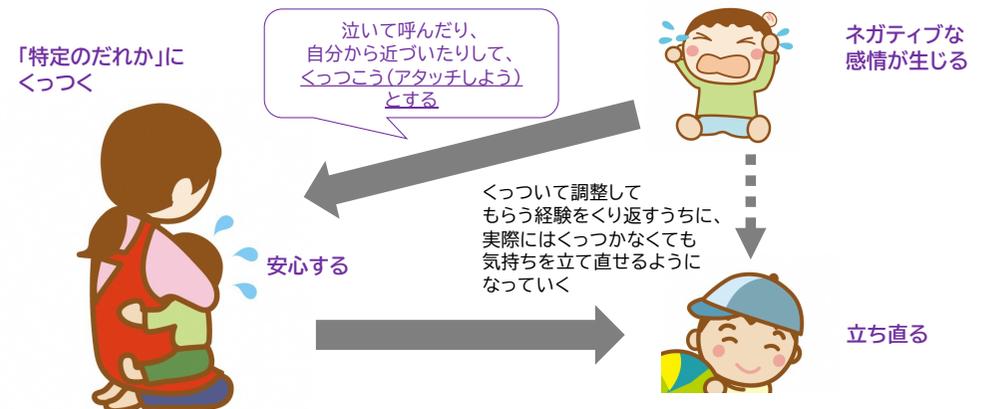
非認知能力の育ちにつながるアタッチメント

京都教育大学 佐川早季子

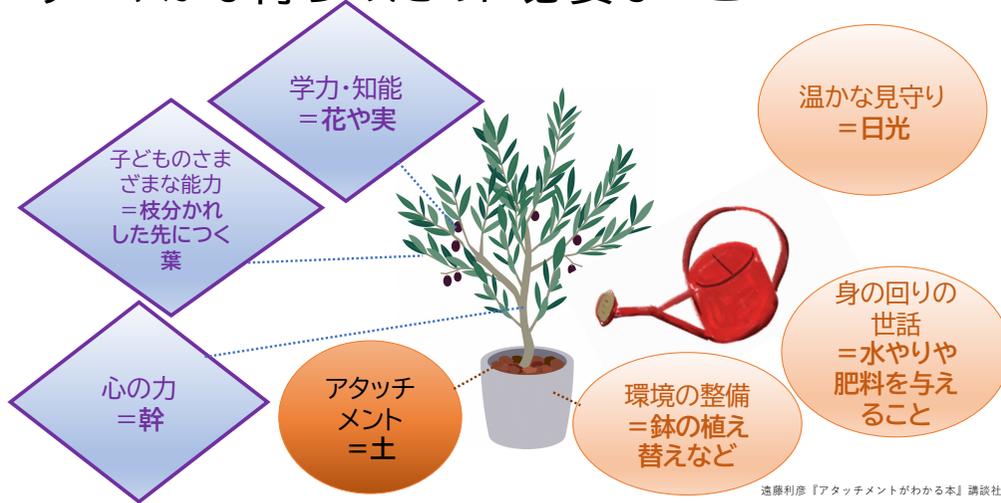
1. 子どもの発達とアタッチメント
2. アタッチメントの個人差と問題
3. 心の力を育む「基地」の役割
4. 保育・教育の場でのかかわり方

1. 子どもの発達とアタッチメント
2. アタッチメントの個人差と問題
3. 心の力を育む「基地」の役割
4. 保育・教育の場でのかかわり方

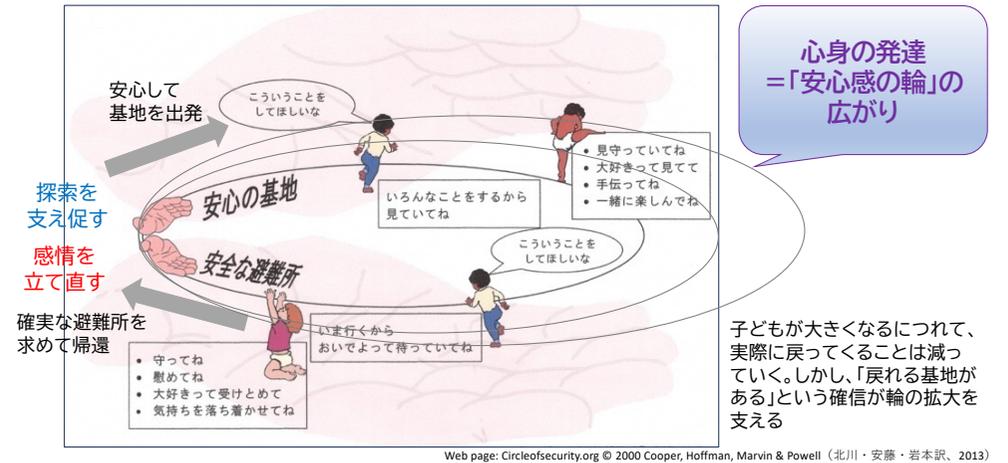
アタッチメントとは くっついて安心感を得る不安解消のシステム



すこやかな育ちのために必要なこと



「安心感の輪」のなかで子どもは遊び、育つ



アタッチメント理論 → 「A/E理論」

Attachment / Exploration
(アタッチメント) (探索)

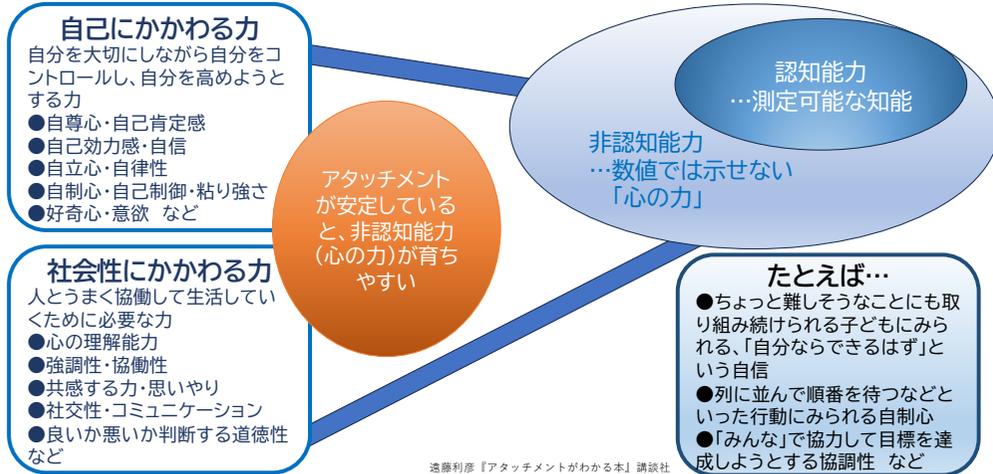
「安全な避難所」 / 安心の基地

安心感の輪

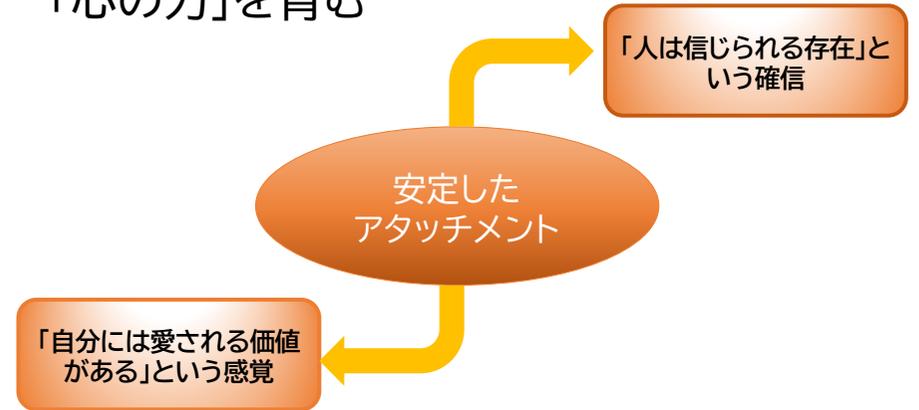
- ・ 物理的に「くっついていること」そのものよりも「いざとなったらいつでもくっつける」という感覚の重要性
- … → 危機との遭遇
- ネガティブな情動経験(恐れ・不安・欲求不満等)
- 「安全な避難所」にくっつくこと(アタッチメント)
- ネガティブな情動の調節/ 情緒的燃料補給
- 「安心の基地」からの探索・遊び
- 危機との遭遇…
- ・ この輪がいかにか自然にかつ確実に機能し得るか → 子どもの健やかな心身の発達のカギ
- ・ 子どもの成長 = 徐々にこの輪を広げること
- 「一人でいられる時間」の拡張

「避難所」: 感情を立て直す / 「基地」: 探索を促す

心の力は「非認知能力」として注目されている



「いざとなったら受け入れてくれる」確信が「心の力」を育む



「愛の理論」の実験

大きな楕円と小さな楕円がくっついて遊んでいるように見える

大きな楕円だけ1段上上がり、小さな楕円はふるえている。赤ちゃんの泣き声が流れ、小さい方が泣いているように見える

小さな楕円を置いたまま、大きな楕円はさらに上の段に登っていく

大きな楕円が小さな楕円のもとに戻ってくっつく

Johnson SC, Dweck CS, Chen FS, Stern HL, Ok SJ, Barth M. At the intersection of social and cognitive development: internal working models of attachment in infancy. *Cogn Sci*. 2010 Jul;34(5):807-25

遠藤利彦『アタッチメントがわかる本』講談社

「愛の理論」の実験

安定したアタッチメントの子どもは、小さな楕円が置き去りにされることに驚く

アタッチメントが安定的でない子どもは、大きな楕円が戻ってくることに驚く

遠藤利彦『アタッチメントがわかる本』講談社

「育てにくさ」は安定的なかかわりを難しくする

1. 子どもの発達とアタッチメント
2. アタッチメントの個人差と問題
3. 心の力を育む「基地」の役割
4. 保育・教育の場でのかかわり方

「育てにくさ」を感じる子ども

気質の問題？

子どもにはそれぞれ生まれ持った気質がある。たとえば、眠りのリズムなど、生理的な周期性が不規則で読みにくい子どもに対しては、「育てにくさ」を感じることも。また、ちょっとしたことでびっくりして泣き出す子もいれば、動じない子もいる。

発達障害の特性？

育てにくさの背景には、発達障害があるのかもしれない。発達のしかたにみられる特有の傾向は、その子の特性として基本的にはずっとあり続けるもの。ただし、乳幼児期には診断が難しいことも。

造藤利彦「アタッチメントがわかる本」講談社

「当たり前」を続けるには養育者の支えも必要

「育てにくさ」を減らす対応

子どもの気質や特性を理解する

主たる養育者をサポートする

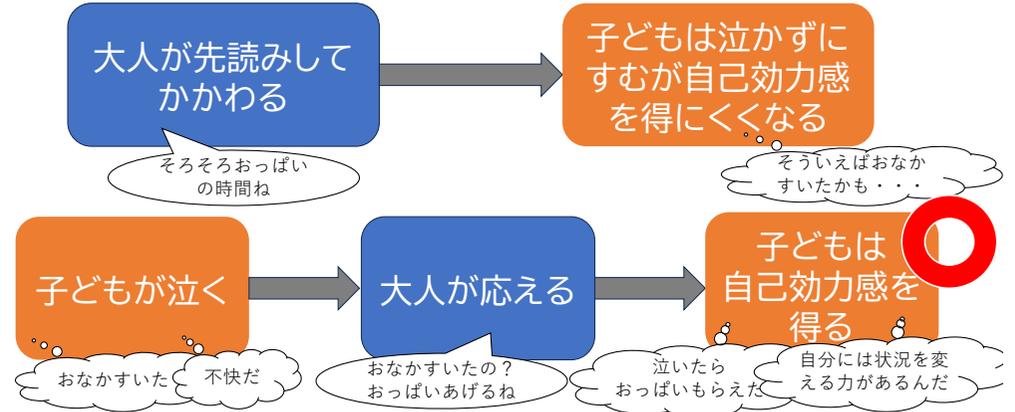
「家庭だけ」でかかえこまない

造藤利彦「アタッチメントがわかる本」講談社

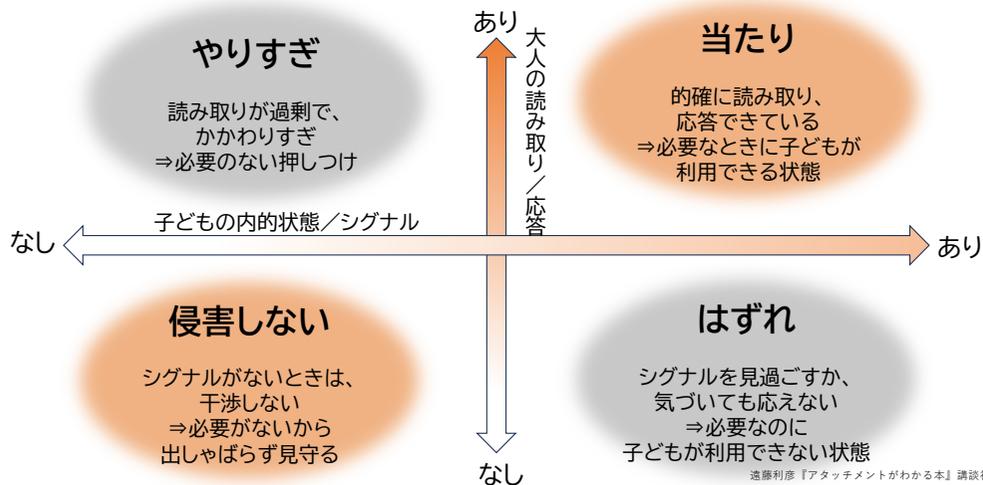
1. 子どもの発達とアタッチメント
2. アタッチメントの個人差と問題
3. 心の力を育む「基地」の役割
4. 保育・教育の場でのかかわり方

子どもが発するシグナルに応じるのは重要でも…「先読み」に注意
求めに応じる。求めがなければ踏み込まない。

「先読み」に注意
求めに応じる。求めがなければ踏み込まない。



「侵害しない」ことも重要



とはいえ、「ほどほど」にうまくいけば十分

- 子どもが発するシグナルに対し、最初から「当たり」をとる確率は、3~4割
- 「はずれ」の場合、言葉を獲得する前であれば、さらに泣き、多少なりともおしゃべりできれば、「ちがうの！」と主張する
- そこで、別の対応をとるなかで、「当たり」が出たら子どもは満足し、それまでの失敗は大目に見る
⇒こうしたやりとりを重ね、最後には自分の思い通りの対応を引き出す経験を通して、子どもは「自己主張する力」や「自己効力感」など、自己にかかわる力が育まれていく
- **初めから完璧な対応をしなれば、と気負うことはない。「ほどほど」で十分。**むしろ、トライ&エラーを繰り返した結果、うまくいった、子どもの立場からすれば望みの対応を手に入れたというほうが、子どものたくましい「心の力」は育ちやすい

感情を整える

子どもの感情調整のしかた

回避型対処

いやなことから目を背けて注意をほかに向けたり、ただ自分の体やお気に入りの移行対象に触れたりして、気をそらす。



幼い時期にみられることが多い

問題焦点型対処

感情が崩れた原因そのものを解決しようとするが、幼少期の段階ではまだうまくいかないことも多く、いわゆる「イヤイヤ期」の到来をまねくことがある



2歳前後

再評価型対処

いやな思いをしたとき、たとえば欲しかったものが手に入らなかったときには「あれは赤ちゃん向けだから、自分には必要ない」と考え、気持ちを落ち着かせる。



小学生になる頃にはこうした方法も

共感的なかかわりが子ども自身の調整力を育む

親のなだめ方の3タイプ

先に注射を受けた赤ちゃんが何人も泣いていて、順番待ちの赤ちゃんも怖くなって泣いている

「立て直しだけ」のタイプ

表情を変えずに「たしいたことないよ」「チクッとするだけ!」と、子どもの不安には触れないようにして、「終わったら、なにして遊ぼうか?」などと、気をそらす

「立て直し・映し出し両立」タイプ

赤ちゃんと同じような表情をしながら、「怖いね」「でも、一緒にいるから大丈夫」「あとで遊ぼうね」など、共感しながら立て直しをはかる

「映し出しだけ」のタイプ

赤ちゃんのあまりの興奮ぶりに動揺し、親も泣きそうになりながら、「どうしよう」「困った」と途方に暮れている

1. 子どもの発達とアタッチメント
2. アタッチメントの個人差と問題
3. 心の力を育む「基地」の役割
4. 保育・教育の場でのかかわり方

子どもが生きる2つの世界

子どもにとって最初のアタッチメントは、親(養育者)とのあいだで形成されるのがほとんど

保育者は重要なアタッチメント対象のひとりだが、「親代わり」というわけではなく、**集団の場**ならではの役割が求められる



保育園・幼稚園・こども園など

家庭



一般的には家庭でのアタッチメントが先行するが、保育者との関係が基盤となり、家庭での安定したアタッチメント形成につながることもある

集団と家庭で少し違う「基地」に期待されること

保育の場で必要とされる2つの敏感性

集団的敏感性

二者关系的敏感性



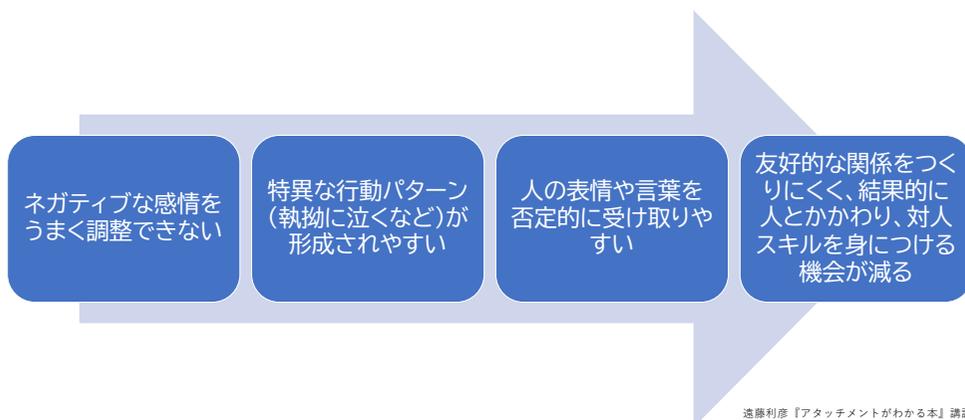
遠藤利彦『アタッチメントがわかる本』講談社

集団としての安全性を高めるために

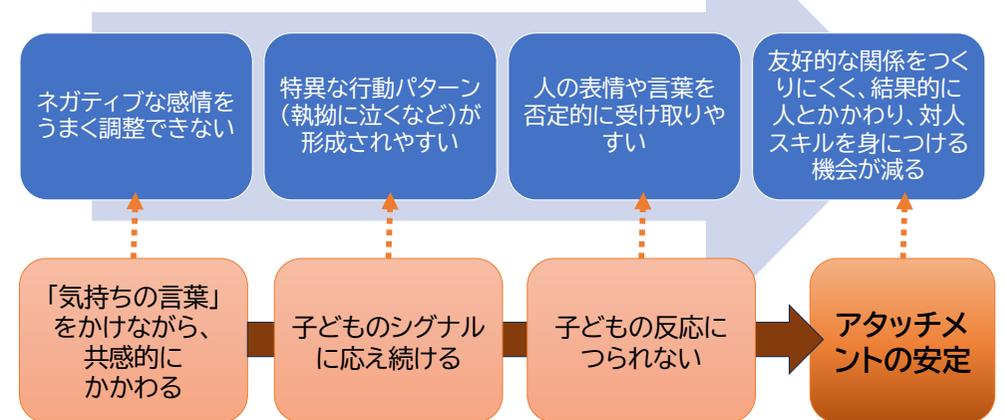
- 園では、ひとりの保育者が複数の子どもを担当する。個々の子どものニーズに的確に応えようとしても対応しきれず、結果的に子どもの不満は解消されにくくなるおそれがある
- 一方、子どもは子どもどうして楽しく遊べるように支えてくれたり、みんなが安全に過ごせるようにしてくれたりする保育者には、「いざとなったらこの先生がなんとかしてくれる」と、信頼を寄せる
- 子ども同士のやりとりもしっかりと目を向け、みんなが楽しく過ごせるように配慮していけば、結果的に保育者と子どもの1対1の関係も、良好なものになりやすい

遠藤利彦『アタッチメントがわかる本』講談社

～個別的なかかわり～ 不安定なアタッチメントの影響

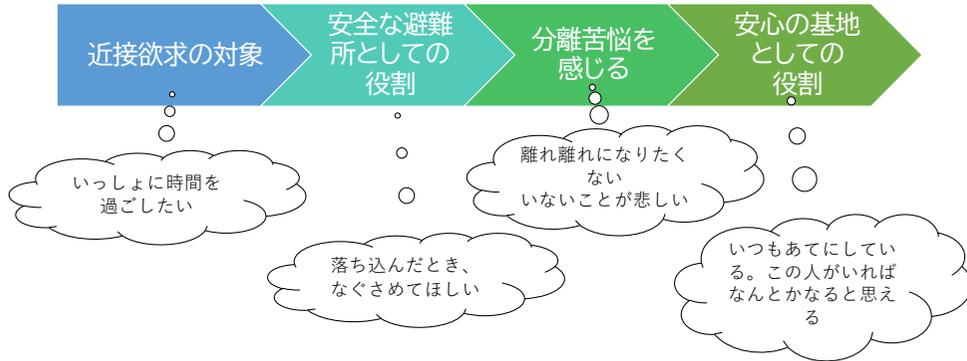


～個別的なかかわり～ 「難しい子」ほど、共感的なかかわりが必要



アタッチメントの対象は変わっていく ～年齢とともに親から仲間、恋人へ～

アタッチメントの対象となる4要素

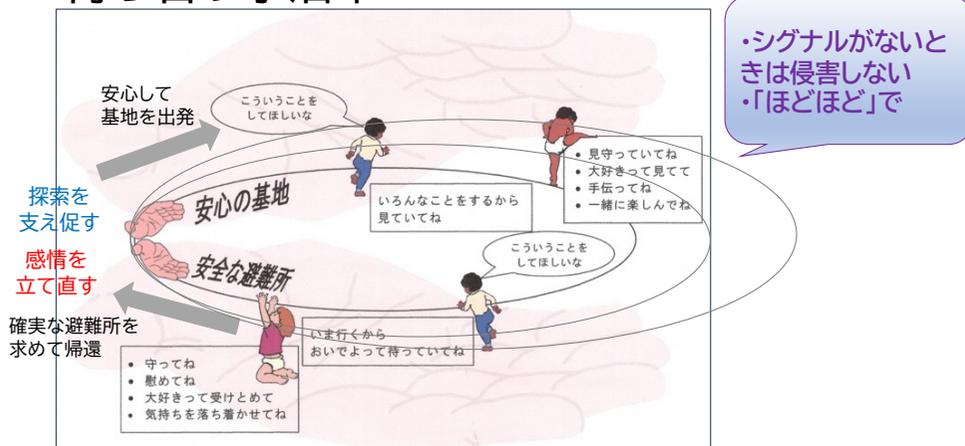


遠藤利彦『アタッチメントがわかる本』講談社

すこやかな育ちのために必要な土＝アタッチメント



「安心感の輪」を回し、広げていく中で 育ち合う宇治市へ



ご静聴ありがとうございました



京都教育大学
KYOBUKI UNIVERSITY OF EDUCATION

幼児教育協働研修

明日の保育がもっと楽しみになる！
公開保育・普及実践ワークショップの開催を行います。
保育の質の向上を目指して、皆さんと一緒に取り組む
対面での幼児教育協働研修です。奮ってご参加ください。

第1回 「音」から広がる子どもの世界
保育実践力向上ワークショップ

日時：7月10日（水）13時～17時
講師：吉水 早苗 氏（東京家政大学教授）
会場：京都教育大学附属幼稚園
定員：先着95名
対象：京都府内幼児教育関係者
申込み：<https://forms.gle/0V1147E6wC9V2338>
(7/18日 申込みは一人一入アツキです)

▶詳細は裏面へ

第2回 保育を見て学ぼう

日程：11月27日（水）
会場：宇治市立東宇治幼稚園

※詳細は、3月16日～3月21日までの期間、京都教育大学附属幼稚園ホームページでご確認ください。

お申込み・お問い合わせ先

京都教育大学 幼児教育実践センター	〒612-8501 京都府宇治市立東宇治幼稚園
〒612-8501 京都府宇治市立東宇治幼稚園	〒612-8501 京都府宇治市立東宇治幼稚園
TEL: 0774-22-1111	TEL: 0774-22-1111
FAX: 0774-22-1111	FAX: 0774-22-1111
E-MAIL: kyoedu@kyobu.ac.jp	E-MAIL: kyoedu@kyobu.ac.jp

京都教育大学幼児教育協働研修にも奮ってご参加ください